

## 研究機関名：東北大学

|  |
|--|
| 受付番号： 2014-1-1   |
| 研究課題名<br>東北大学病院で分離された外来・入院患者由来 MRSA の疫学的・細菌学的解析  |
| 研究期間 西暦 2014年 4月（倫理委員会承認後）～ 2017年 3月   |
| 対象材料<br><input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____）<br><input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____）<br><input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（菌株：MRSA および患者臨床情報）<br>上記材料の採取期間 西暦 2012年 10月～ 2013年 9月   |
| 意義、目的<br>メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）は院内感染原因菌として医療機関での検出が多く（院内感染型 MRSA）、特に易感染性のある入院患者での感染は重症化もありえるため問題となる。また近年、MRSA 感染リスク因子である医療曝露歴なしに発症する市中感染型 MRSA 感染症が報告され、院内感染型 MRSA よりも水平伝播しやすい可能性あり、感染制御上の問題となりうる。検出された MRSA が、他の MRSA と同一の菌かどうかを判断する一助として PFGE（パルスフィールドゲル電気泳動）法という分子疫学的手法が行われることがあるが、その実施は習熟を必要としかつ結果判明に長時間を要し、迅速な対応が求められる感染制御に役立てる上で課題となっている。最近、菌株同士の類縁関係を判別する簡便かつ短時間で実施可能な分子疫学的手法として POT（Phage-Open reading frame Typing）法が開発され、従来法に比して判別の精度も遜色ないという報告も見られる。今回我々は、東北大学病院で検出された MRSA に対して POT 法と従来の分子疫学的検査法、市中感染型 MRSA の特徴に着目した細菌学的特徴の解析を実施し、患者の臨床的背景も加えて、病院内で伝播しやすい MRSA の特徴について解析する。 |
| 方法<br>2012年 10月 1日から 2013年 9月 30日まで東北大学病院において外来・入院患者さんから診療行為として行われた細菌検査より検出された MRSA を解析対象とする。菌株同士の類縁関係を判別するため従来法の PFGE 法と最近開発された POT 法を実施し、病院内で検出される MRSA の伝播状況を調査する。また、市中感染型 MRSA の細菌学的特徴の解析として、細菌病原性・薬剤耐性遺伝子（SCCmec 型別、PVL/ACME 遺伝子）、薬剤感受性試験を行う。あわせて、カルテを閲覧し、解析対象菌株由来患者さんの①年齢、②性別、③外来受診日・入院日、④入院時病名、⑤基礎疾患、⑥入院病室と転室先、⑦細菌検査実施日、⑧MRSA 感染症治療内容、⑨入院後経過、これらから MRSA の伝播性について解析する。   |
| 問い合わせ・苦情等の窓口<br>東北大学大学院医学系研究科 感染制御検査診断学<br>矢野 寿一 猪股 真也（TEL: 022-717-7373）  |